



南小だより



柳井市立柳井南小学校

令和8年8月号

文責:校長 吉中 孝志

◇学校教育目標:「やさしく かしく たくましく ふるさとを愛する 南っ子の育成」

◆82日の2学期が始まりました！

8月25日(火)、2学期のスタートを迎えました。始業式では、代表者が「2学期にがんばること」について発表しました。国語の漢字や算数の問題など学習に関する目標のほか、「字をきれいに書けるようになりたい」「持久走大会で1位を獲りたい」「習い事を頑張りたい」「百人一首を強くなりしたい」「(柳井市)音楽会で太鼓をがんばりたい」など、それぞれが堂々と決意表明をしており、とても頼もしく感じました。



*暑さ対策のため、コミスクールームで始業式を行いました。

校長式辞では、夏休みの生活の振り返りを行うとともに、子どもたち自身が春に掲げたチャレンジ目標、「やさしい言葉 感謝の言葉」「自分の考えを伝える」「新しいことに粘り強くチャレンジ」を実現させるため、2つのキーワード【地域貢献】・【夢→目標→志】を意識した82日間にしてほしいと伝えました。

2学期は、子どもたちの様々な成長の姿が見られる行事が盛りだくさんです。保護者・地域の方々の応援や励ましがあると、子どもたちも程よい緊張感のもと張り切って取り組むでしょう。その環境こそ子どもたちが成長する絶好の場になります。是非ともその場に来ていただき、応援をよろしくお願いします。

◇2学期に実施される主な行事

- 9月25日(金) 稲刈り(13:35)
- 10月 9日(金) 陸上記録会 (小田小学校 8:55~10:25)
- 10月30日(金) 柳井市音楽会(サンビームやない)
- 11月 7日(土) かがやき発表会(本校 10:00~11:40 予定)
- 12月 2日(金) さざなみ持久走大会 (小田小学校 9:30~11:00 予定)

*詳細が決まりましたら、あらためてご案内します。

◆お知らせ

9月22日(休日・火曜)・23日(祝日・水曜)に奉祝925年 賀茂神社御式年祭が開催されます。22日午後からの「芸能大会」に約30分の貴重な時間をいただき、有志で出場することになりました。地域の方々が一体となって行われるお祭りに参加できることを大変うれしく思うとともに、本校ならではの「地域貢献」ができればと張り切っております。お楽しみ抽選会なども準備されていますので、是非たくさんの方々に来てもらいたいと思います。

◆保護者・地域の皆様と考えるXI ～校長のつぶやきから～

熊本地震が発生し間もなく1ヶ月が過ぎようとしています。この震災で亡くなられた方へのお悔やみとともに、被災し今もなお厳しい生活を送られている多くの方々へお見舞いを申し上げます。

さてこの夏、「災害大国日本における防災教育を考える～山口県を中心に～」というテーマで山口大学名誉教授、アジア防災センター長の三浦房紀(みうらふさのり)先生の講演を聞く機会がありました。この講演は、私にとって多くの学びがありましたので、内容の一部にはなりますが皆様と共有します。今月号は他の原稿を準備していたのですが、私自身や学校だけでなく、地域の方々にも考えるきっかけ、備えるきっかけになればと思い原稿を差し替えた次第です。その意もくみ取っていただき、是非自分事として考えていただけると幸いです。

三浦先生によれば、まず「次の南海トラフ巨大地震はそう遠くない将来必ず起こること」として「震度分布で見ると、柳井市は震度5強～6弱が想定(山口県内では最大規模)される」とのこと。あらためてその危機感を覚えた次第です。

しかしながら、山口県における南海トラフ巨大地震の被害は地震そのものよりも、地震に伴う「物の落下による事故」「火災(主に通電火災)」「津波」によるものが大きいと言われており、三浦先生によれば、それらの対策をしっかりと行っていけば、「山口県は死傷者をゼロにできる」そうなのです。この提言に少しでも近づけるよう、私たちができることをしっかりと行わなければならないと考えました。

最初の揺れから本格的な揺れが来るまでの到達時間差は柳井では約25秒～35秒あると言われており、その数十秒の間で安全を確保すること(火を使っていたらすぐに火を消す。家の外に出て安全な場所へ逃げるなど)が重要なこと。また、津波の到達時間は発生後120分前後、ピーク水位は3m～4m程度と言われており、避難までの時間的な猶予は十分にあるため、落ち着いて行動することなど、地震や津波のメカニズムから科学的な根拠に基づいた三浦先生のお話に冷静にこの地震について捉えることができました。

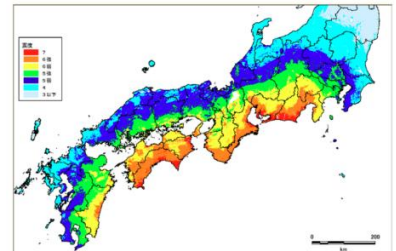
今回のお話の中で、私が心に残った内容は、学校防災だけでなく、家庭の防災、地域の防災が何よりも大切だということです。確かに、一日の70～80%を子どもたちは学校外で生活しています。よって、「もしもの場合」のことについてご家庭でもしっかりと話し合う機会をもっていただけると幸いです。子どもと親が別々の場所で被災した場合、互いのことを心配し動いたことが原因で津波に巻き込まれたというケースもあるようです。我々はこの悲しい出来事を教訓として、『率先避難』を徹底しなければなりません。つまり、「子どもは、後で親が必ず迎えに来てくれると信じて一人で逃げる。親は、子どもが必ず逃げてくれていると信じて、後で迎えに行くために逃げる」というものです。そのため、学校管理下では「津波」の際は、警報が解除されるまで保護者の引き渡しを行わないことになっています。

正しい知識と備えは、漠然とした知識や不安を煽るような報道及びSNSによる誤った情報(デマ)などに揺らぎ、無知が故の恐怖心や不安な感情を取り除いてくれます。

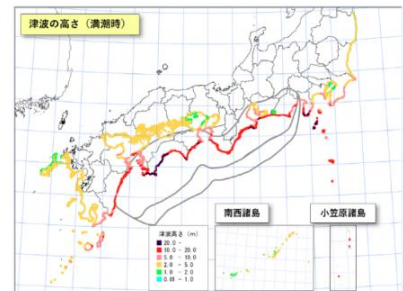
11月17日(火)に本校にて、大地震を想定した訓練を南保育所や地域の方々と合同で実施する計画を進めています。是非、ご参加いただき、この機会に大切な命を守ることにいっしょに考えるきっかけになればと思っています。

そして、近い将来その日が訪れた際も、被害を最小限にとどめた私たち山口県民が、甚大な被害を受けてしまった他県の方々の支援にあたれるような温かい山口県民の理想の姿を思い描いています。

※白黒印刷の関係で資料が見つらく申し訳ありません。文章中の資料は、気象庁HPから引用しています。学校HP(カラー版)や気象庁HPなどでご確認ください幸いです。



南海トラフ巨大地震の震度分布



南海トラフ巨大地震の津波高

